

SPC flooring 施工説明書

はじめに

施工前に、受け取った製品に傷等がないことをお確かめください。未開封の箱は常に平らで水平な場所に保管してください。S・P・Cフロアは屋内での使用のみを目的としており、床材としてのみ使用してください。

施工前

- ・ 角を損傷から保護するため、製品は常に水平に保管してください。
- ・ 施工前および施工中に、すべての床材に目に見える欠陥や損傷がないか調べてください。損傷した床材を取り付けしないでください。目に見える欠陥があるまま施工された床材に対する責任は負いません。
- ・ すべての箱が正しい製品であることを確認してください。仕上がりや外観のため、施工時には一度に複数の箱を開き、仮並べしてください。
- ・ 直射日光に長時間さらさないでください。変色や伸び、突き上げを起す可能性があります。日光が当たるピーク時には、カーテンまたはブラインドの使用をお勧めします。
- ・ この製品は置き敷き工法を目的としているため、決して下地に釘打ちしないでください。

設置個所の条件 / 下地の準備

- ・ 下地には、ほこり、塗料カス、ワニス、ワックス、油、硬化シーラー、溶剤、その他の異物がないようにします。既存の床材施工時の糊残りは、できる限り取り除いてください。
- ・ 下地に不陸がないことをお確かめください。

適切な下地

S・P・Cフロアはどのような下地にも施工できます。しかし、下地の過剰な水分は、カビの発生・繁殖、およびフローリング下での水分放出があります。水分による問題が発生する可能性があります、不健康な室内環境の一因となり得ます。S・P・Cフロアは、クッションフロア、アスファルトベースのフロア、カーペット、接着剤不要のフロア、薄板または置き敷き床、または構造的に不具合があるコンクリートの上には施工しないでください。

コンクリート下地

コンクリート下地は、施工前に以下の要件を満たしているか確認します。満たしていない場合は、施工しないでください。施工前に60日間養生し、過度の湿気がないかどうか検査する必要があります。

木質下地

12 mm以上の合板、PBの下地に使用できます。合板・PBのジョイントに段差がないことをお確かめください。

既存のレジリエントフロア

S・P・Cフロアは、1層のクッション性のないシートフロアに施工することができます。

石膏フロア

床材グレードの石膏下地の上に置き敷き床として使用することができます。ジョイントに不陸がないことをお確かめください。

床暖房

S・P・Cフロアを床暖房に使用する場合は、壁際に3 mmのクリアランスを設けてください。施工時に3 mmのスペーサーを使用してください。

施工

1. 床材を取り付ける方向を決めます。フローリングが最も長い壁と平行になるように施工することをお勧めします。
2. 部屋を慎重に測定して、床材の最後の列の幅を決めます。オス実を除いて幅が50 mm未満の場合、床材の最初の列の幅をカットして調整します。
3. 部屋の周囲とすべての壁や建具等の周囲には、最小3 mmの拡張スペースが必要です。
4. 施工を始める壁の左側から床材を敷き、右側に向かって作業します。オス実は貼り始めの壁に面しています。
5. メス実の溝部分を確認し、適切な施工を妨げる可能性のあるゴミを取り除きます。
6. 床材の短辺・長辺と壁の間に3 mmのスペーサーを配置します。壁と床材の接合部の間には必ず1つのスペーサーを配置してください。
7. エンドジョイントは、前の床材のメス実の面の上にオス実を重ね合わせて組み立てます。しっかりと圧力をかけて綺麗にはめこみます。所定の位置に収まるまで短辺ジョイントを押し下げ、残りの床材も取り付けていきます。
8. 列の最後の床材はカットする必要があります。壁と最後の床材の表面との間の距離を測定します。測定値からスペーサー分(3 mm)を引いてください。20 cm未満の場合は、列の最初の床材を切ってください。各列の最初と最後の床材は少なくとも20 cmでなければなりません。鋭利な万能ナイフと直角定規を使って表面に線を入れて折るか、タイルカッターを使用します。
9. 切り取った残りは、少なくとも20 cmあれば2列目の最初のピースとして機能することもできます。最低20 cmの間隔で常にエンドジョイントをずらして配置します。
10. 2列目の最初の床材の長辺を取り付けます。壁と床材の短辺の間に3 mmのスペーサーを配置します。低角度で平らに下ろして、オス実を前の列のメス実にはめこみます。
11. 2列目の2枚目を取り付けます。長辺のオス実を最初の列のメス実完全ににはめ込みます。接合部分が重なり合って完全に整列していることを確認しながら、所定の位置に収まるまでエンドジョイントを押し下げます。完全に固定するにはゴムハンマーを使用する必要があります。全体に影響を与える可能性があるため、最初の2列はゆがみがないようにしてください。
12. 左から右へ、1列ずつ作業を続けます。すべての壁と建具の周囲に3 mmのスペースを確保するようにしてください。ランダムな外観を維持するには、エンドジョイントを最低20 cmずらしてください。




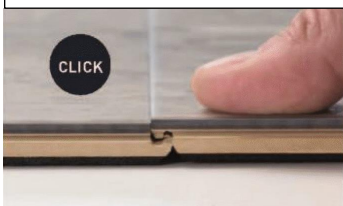
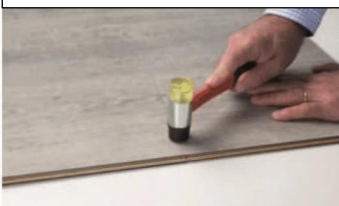

施工終了

- ・ すべて取り付けたら、部屋の周囲からスペーサーを取り外します。
- ・ 巾木を取り付けます。3 mmのスペースをカバーするのに十分なサイズで、フローリン




グではなく壁に固定してください。

- ・ 重い家具や家電製品を移動するときは、合板を使用してフロアを保護します。
- ・ 家具や椅子の脚の下にはフロアを保護するシートやカバーを使用してください。
- ・ S・P・Cフロアに大きな家具を置くと、フロアが下地に固定され、均等に伸縮するのを妨げ、側面または端部のはがれ、突き上げやズレが生じる原因となります。

組み立て方

1. 長辺からはめ込む。	2. 隣の板の短辺に当たるまでスライドさせ、ゆっくり落とす。	3. 短編の両端を親指で押す。
		
4. カチッと音がするまで押し続ける。	5. はめ込んだ短辺の両端をゴムハンマーでやさしく叩く。	6. これで固定される。
		

外し方

1. 必ず長辺から外し始める。	2. 両手で板を持って板が外れるまでそっと持ち上げる。	3. 床にそっと置く。
		
4. エンドジョイントを外すには、板をそれぞれ反対方向にスライドさ	5. スライドさせているときは、板を軽く抑える。	6. 完全に外れるまでスライドさせ続ける。
	